

授業改善書

科目名	人文地理学
担当者	亀井啓一郎

授業の概要

授業ではまず地図の概念や世界地図の歴史と発達といった地図に関する講義を行った。そのあと、世界の国々と民族、世界の首都、日本の人口、都市の制度、観光と余暇に関する講義を行った。地域を見る、地域を知るということを念頭に置き、授業を進めた。

本科目は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教職免許の取得のための科目にもなっている。そのため、教職に就いた場合に必要とされる知識や教養を身に付けることもこの授業の目的のひとつとして授業を進めた。

授業の問題点

授業は、基本的にはパソコンを用いてパワーポイントを進めた。スクリーンに映した画面をただノートに写すだけではなく、地図帳や資料、写真を見せながら授業を進めるようにした。学生にとって新たな知見を得られるような授業構成を心がけた。

パワーポイントのスライドは見て理解しやすいようにまとめ、学生がノートに写しやすいよう工夫した。

授業開始時には小テスト(2~3週に1度)を行った。これは履修者の地理的な知識・教養を確認するための問題である。小学校・中学校レベルの問題(都道府県名や県庁所在地など)ではあるが、忘れていた、覚えていなかったということを認識させ、覚え直すことを促した。

授業改善の課題・方策

私語をする履修者はおらず、快適に授業を進めることが出来た。また全般的に出席率も良かった。その一方で、居眠りをしてしまう履修者が見られる。

一方的に話を進める講義形式だけでなく、作業や簡単な実習を伴うような授業構成も検討したい。前述したように小テストを行っているが、その出来はあまり良くはない。基礎的な地理の知識が不足している者も少なからずいる。一般常識としても必要であると認識させ、覚えさせるようにしている。

その他